



一つになって

南北首脳会談、新たな民族史の始まり

大韓民国 統一部

目次

1. 南北首脳会談、このように進行されました / 3
2. 南北共同宣言の主な内容は次の通りです / 11
3. 南北共同宣言が出された背景を探ってみましょう / 17
4. 南北首脳会談の成果と意義は次の通りです / 21
5. 南北首脳会談以降の対処を調べてみましょう / 25
6. 今後の韓半島の情勢および南北関係を見通してみましよう / 29
7. 南北首脳会談の関連情報を紹介します / 33

〈付 録〉

- 1 南北首脳会談の開催経過 / 40
- 2 南北首脳会談の開催合意書 / 42
- 3 南北首脳会談の実務手続合意書 / 43
- 4 南北共同宣言 / 47



1. 南北首脳会談、このように進行されました

- 〈6月13日(火)〉 分断55年ぶりの初対面
- 〈6月14日(水)〉 理解と信頼を固めながら
- 〈6月15日(木)〉 短い出会い、深い感動

1

6月13日(火)／分断55年ぶりの初対面

- ❶ 見送りに出たソウル市民と金大統領
- ❷ 金大統領一行を歓迎する平壤の市民たち
- ❸ 金正日国防委員長長の空港迎接
- ❹ 北朝鮮三軍の儀仗兵の榮譽礼





3



4

5



2

6月14日(水) / 理解と信頼を固めながら





3

- 1 答礼する両首脳
- 2 李姬鎬大統領夫人、蒼光幼稚園参観
- 3 南北共同宣言の交換
- 4 北朝鮮側の祝賀公演



4

3

6月15日(木)／短い出会い、深い感動



1



- ❶ 「私たちの願いは統一」を歌う南北代表団
- ❷ 告別午餐会の時の乾杯
- ❸ 平壤出発の前に抱擁する両首脳



3



2. 南北共同宣言の主な内容は次の通りです

- 1) 統一問題を、その主人であるわが民族同士でお互い力を合わせ、自主的に解決する。
- 2) 統一のための南側の連合制案と北側の緩やかな連邦制案が相互、共通性があると認め、今後この方向から統一を志向していく。
- 3) 今年8月15日に際して、離散家族、親戚訪問団を交換し、非転向長期囚問題など人道的問題を早急に解決していく。
- 4) 経済協力を通じて、民族経済を均衡的に発展させ、社会文化、体育、保健、環境などあらゆる分野での協力と交流を活性化させていく。
- 5) 以上のような合意事項を早急に実行に移すため、早い時期に当局間の対話を開催する。
金大中大統領の招請により、金正日国防委員長は今後適切な時期にソウルを訪問する。

1

統一問題をその主人であるわが民族同士でお互い力を合わせ自主的に解決する

- ・南北が「7.4共同声明」で合意した原則を再確認したもので、統一問題は基本的に民族内部の問題であり、したがって南北が当事者原則に基づき、7千万民族の意志によって解決することにしたものです。
- ・これと関連して、金大中大統領は外圧排除などの排他的な自主ではなく、国際社会の支持と協力に基づいた自主が必要だという点を力説し、金正日国防委員長の共感を得ました。
- ・これまで北朝鮮が自己体制を危うくするものと誤解してきた国際共助問題においては、韓半島の平和と安定そして北朝鮮の国際社会参加と経済的進出に役立つ環境を作るという点を十分に納得させこのような方向に協力することを説得しました。
- ・一方ここでいう自主的な解決とは北朝鮮が従来から主張してきた米軍撤退の主張とつながる概念ではありません。
- ・両首脳は真摯な対話を通じて在韓米軍が東北アジアの平和と安定に重要な役割を果たしているという理解に至ることができました。
- ・両首脳のこのような合意は民族の生存と将来問題を国際社会の支持と協力に基づいて南北当事者が自ら解決していくという意志の反映です。

2

統一のための南側の連合制案と北側の緩やかな連邦制案が相互共通性があると認め、今後この方向から統一を志向していく

- ・南北がすぐ統一できる状況ではないという現実の中で、南北首脳はまず双方の統一方案に共通点があるという認識を持ちました。
- ・私たちの統一方案である「南北連合」はお互いに違う2体制2政府をそのままにして、南と北が首脳会談、閣僚会議など常設協議体を構成しすべての懸案を協議して執行していこうという方法です。
- ・私たちは従来から一貫して統一のためには準備段階が必要だという現状を認識し、このような統一準備過程を制度化するために「南北連合」を提案してきました。
- ・この案は80年代末に国会の公聴会や幅広い国民の意見を取りまとめるという過程を経て作られたもので、この間国民の絶大な支持を受けました。
- ・一方北朝鮮が1980年から主張してきた「連邦制」案は1国家内に2体制において連邦政府が外交権、軍事権を持ち、2つの地域政府が自治をしようという案です。
- ・しかしこのような連邦制案は現時点で履行不可能な案でこれを認識した北朝鮮は1991年以降から連邦国家の外交・軍事権を地域政府が持つ「緩やかな連邦制」案を提示しています。
- ・このような北朝鮮側の「緩やかな連邦制」案は従来の「高麗連邦制」とは差があり、中央政府の構成などいくつか異なる点を除けば韓国の「南北連合」案と類似しているものです。

- ・南北の首脳がこのような点を認め、当局間の協議を通じて統一を目指していくことに合意することによって事実上南北間統一問題の議論の糸口を探す契機が作られたのです。
- ・これによって南北は統一方案に関連した消耗的な論争を止めることができました。

3

今年の8月15日に際して離散家族、親戚訪問団を交換し、(南韓戦争以降スパイ活動などで逮捕され、韓国の民主主義に思想転向を拒否している)非韓向長期囚問題など人道的問題を早急に解決していく

- ・北朝鮮側は、今年の8月15日に際して失郷民、離散家族の訪問・再会問題を優先的にまた相当な規模で解決することを約束しました。
- ・このような約束の履行のために南と北は6月末から赤十字会談を開催することに合意しました。
- ・このような成果を土台にこれから生死および住所の確認、再会、往来および自由意思による再結合など離散家族問題の解決を制度化していけるでしょう。

4

経済協力を通じて、民族経済を均衡的に発展させ、社会、文化、体育、保健、環境などあらゆる分野での協力と交流を活性化させていく

- ・現在の北朝鮮経済の困難な状況を考え私たちが鉄道、道路、港湾、通信、電力などインフラ分野での経済協力を深めていけば韓国内部にとどまっていた経済規模は韓半島全体の経済規模に拡大させる効果があります。

- ・これは北朝鮮の経済発展にも役立ち私たちにも利益となり民族経済が均衡的に発展する効果をもたらします。
- ・また北朝鮮の優秀な労働力と韓国の資本・技術力が結合すれば、韓国の中小企業は国際的競争力を持つようになり南と北全体の利益となるでしょう。
- ・経済協力と共に社会、文化、体育、保健、環境など多方面での交流・協力は南北間の同質性回復と信頼の構築に貢献します。

5

以上のような合意事項を早急に行うため、早い時期に当局間の対話を開催する

- ・南北首脳がどんなに良い宣言や合意をしても具体的に実践されなければ何の意味もありません。
- ・したがって南北は責任のある当局間の会談を通じて両首脳の共同宣言を履行し実践していこうとしています。

金大中大統領の招請により、金正日国防委員長は今後適切な時期にソウルを訪問する。

- ・南北首脳の対面と会談が一回性の行事に終わってしまったのは民族と世界各国の信頼を得られません。
- ・このような観点から金正日国防委員長もソウル訪問を約束し、今後適切な時期に次回の首脳会談をソウルで開催することに合意したのです。



3. 南北共同宣言が出された 背景を探ってみましょう

- 1) 金大中大統領と金正日国防委員長の歴史的な決断がありました。
- 2) 南北首脳の相互理解と信頼そして建設的で合理的な姿勢が基になりました。
- 3) 世界的に脱冷戦時代の潮流が形成され、韓半島にも和解・協力の雰囲気成熟してきました。
- 4) 韓半島の平和に対する国民的支持と国際社会の協力がありました。

1

金大中大統領と金正日国防委員長の歴史的な決断がありました

- ・金大中大統領は野党のころから韓半島の平和と統一推進にはっきりとした哲学を持っており、大統領就任以降このような哲学を基に対北朝鮮和解・協力政策を一貫して推進してきました。
- ・また大統領就任演説など機会あるごとに南北首脳会談開催を提言し、特に先日の「3.9ベルリン宣言」を通じて政府レベルの南北経済協力推進の必要性を力説し、当局間の対話を促しました。
- ・金正日国防委員長がこれに応えることとなり、遂に南北首脳会談が開催され、ここで南北首脳は南北間の対話と協力だけが分断の深化を防ぎ共に繁栄し平和と統一を早める道だということで意見の一致を見ました。
- ・言いかえれば、この共同宣言は「過去よりは未来」を志向、平和と和解・協力が民族の利益に合致するという共感に基づいた南北首脳の歴史的決断から始まったのです。

2

南北首脳の相互理解と信頼そして建設的で合理的な姿勢が基になりました

- ・南北の首脳は長時間顔を合わせ胸襟を開いて率直に対話することにより相互理解と信頼の幅を広めることができました。

- ・また、両首脳は民族共同の利益のために相手の立場と実現可能性を十分に考慮しながら虚心坦懐に会談を進行、共通点を探し合意するという生産的な対話に努力しました。
- ・特に金大統領が就任以降一貫して推進してきた和解・協力政策について北朝鮮の金正日国防委員長が理解と信頼を持って応える姿勢を見せました。

3

世界的に脱冷戦時代の潮流が形成され、韓半島にも和解・協力の雰囲気成熟してきました

- ・東欧共産圏の没落、ソ連の解体、中国の改革と開放など冷戦体制が崩壊してから10年が経ち、「冷戦の島」であった韓半島にも脱冷戦の雰囲気が成熟してきました。
- ・これに応えわが政府は北朝鮮との和解・協力を積極的に推進させることにより南北間の実質的な協力関係を増大させ緊張を緩和させてきました。
- ・周辺4国など国際社会も継続的に南北当事者間の対話を通じた韓半島の平和と安定を促してきました。
- ・北朝鮮もこのような脱冷戦の国際環境に適応するため実用主義的に対内外政策を調整し、韓国と和解・協力をしていく必要性を認めたと評価します。

4 韓半島の平和に対する国民的支持と国際社会の協力がありました

- ・ 政府が北朝鮮と平和と和解・協力を推進することについて世代と階層を超えた韓国民の支持がありました。
- ・ これを基に韓国政府は自信を持って政策の一貫性を堅持でき、その結果国際社会の幅広い支持と協力を得ました。
- ・ 私たちの和解・協力政策を基礎に韓・米・日の政策協力を通じて北朝鮮の国際社会参加環境を作り上げ、中・ロなども韓半島の平和と安定に積極的に協力しました。
- ・ 韓半島の平和と南北間の協力に対する韓国内の努力と国際的支持が相乗効果をもたらし、その結果北朝鮮はこのような流れに参加したのです。



4. 南北首脳会談の成果と 意義は次の通りです

- 1) 分断55年ぶりに初めて首脳会談が開催され、5項目の共同宣言が合意・発表されました。
- 2) 両首脳は率直な意見交換を通じて理解を深め、信頼を築きました。
- 3) 原則的に南北間の既存の合意を尊重しながら、これを実行するための具体的な事業に合意しました。
- 4) 離散家族問題の解決に突破口を作りました。
- 5) 南北間の不信と反目を清算し、和解と協力の時代を本格的に開く転換点となり、南北関係正常化の土台も作りました。
- 6) 対北和解と協力政策の持続的推進の結果であり、首脳会談でこれを確認しました。

1 分断55年ぶりに初めて首脳会談が開催され、5項目の共同宣言が合意・発表されました

- ・今回の首脳会談は分断以降55年ぶりに初めて南北の最高当局者が会い、対話をしたという点で南北分断史に新たな一線を画す歴史的な出来事です。
- ・加えて、南北首脳が南北間の対話と協力のみが分断の深化を防ぎ、共に繁栄し平和統一を早める道だという共通の意見を持つこととなり韓国の新たな民族史が始まることとなりました。
- ・両首脳が今後の方向と当面の実践課題5項目の共同宣言に合意することにより今後南北関係の画期的な発展が約束されました。

2 両首脳は率直な意見交換を通じて理解を深め、信頼を築き上げました

- ・金正日国防委員長が韓国の大統領を最高の礼遇で歓待し、このような雰囲気の中で南北首脳が民族の生存と将来問題に対し真摯に議論したことはとても意味があります。
- ・特に両首脳が顔を合わせ胸襟を開いて率直に対話することにより、相互信頼を築いたという点は大きな成果です。
- ・また、南北首脳会談を準備し進行するすべての過程で自然に南北当局間の信頼が高まり、協力できるようになりました。

3 原則的に南北間の既存の合意を尊重しながら、これを実行するための具体的な事業に合意しました

- ・南北の首脳は、「7.4南北共同声明」(1972年)と「南北基本合意書」

(1992年発効)などの原則と方法はすでに合意されているだけにいまや実行が必要であり、一つでも実行できることを合意し段階的に南北関係を発展させていくことにしました。

- ・また韓半島での戦争勃発防止と平和安定についても確かな共感を覚え、このような精神に基づいて軍事直通電話の開設、相互誹謗中止、破壊・転覆行為の中止などの具体的な事項を協議・解決していく土台を作りました。
- ・この南北首脳会談の合意は単なる宣言で終わらせるのではなく実行また履行されるためにあるということを示していきます。

4

離散家族問題の解決に突破口を作りました

- ・南北離散家族問題の解決は南北間の信頼回復の象徴であり和解・協力の証です。
- ・離散家族問題の解決が延びている間、人々は高齢化し、数多くの離散家族が分かれた家族の消息もわからないまま亡くなっており、この問題はこれ以上延ばすことができないほど切迫した課題です。
- ・南北首脳は離散家族問題が人道的なレベルで早急に解決されなければならないという共通認識のもとで来る8月15日を目処に離散家族訪問団の交換に合意しました。
- ・このような合意は離散家族問題解決の突破口を作ることになり、この合意を土台に南と北は離散家族問題を段階的に解決できるようになります。

- ・ 離散家族問題解決を一回性でなく制度化し得るよう発展させ、生死・住所確認、再会、往来および自由意思による再結合にまで発展させていくつもりです。

5

南北間の不信と反目を清算し和解と協力の時代を本格的に開く転換点となり、南北関係正常化の土台も作りました

- ・ 今度の南北首脳会談は過去半世紀にわたる南北間の対決と葛藤の歴史を清算し、和解と協力の新時代を開く出発点です。
- ・ この会談をきっかけとして南北が相互理解と信頼の幅を広め、これを土台に対話と協力、平和と共存の時代を切り開いていく民族史の重要な転換点となりました。
- ・ また、当局間の会談の持続性を確保し金正日国防委員長のソウル訪問にも合意することにより、南北関係の正常化の土台がつくられました。

6

対北和解と協力政策の持続的推進の結果であり、首脳会談でこれを確認しました

- ・ 私たちは「国民の政府」発足以来、堅固な安保を基に和解・協力と平和共存を求める対北朝鮮政策を一貫して推進してきました。
- ・ このような韓国の対北政策は南北間の実質協力関係の拡大と韓半島の平和安定に大きく寄与し、このような土台の上で北朝鮮側も韓国の真意を理解して応えてくれました。
- ・ 首脳会談をきっかけとして韓国の対北和解と協力政策の成果が再確認されたことにより、韓国政府は今後もこのような政策基調を一貫して維持していきます。



5. 南北首脳会談以降の 対処を探ってみましょう

- 1) 南北会談に備える体制に転換します。
- 2) 各分野別に南北協力案を作成していきます。
- 3) 対北政策に対する国民的共感をより強化させていきます。
- 4) 国際的な協力も継続的に推進します。

1 南北会談に備える体制に転換します

- ・早い時期に南北当局間の会談を開催し、今度の南北首脳間の合意事項を実行するための協議を開始します。
- ・優先的に代表団の構成作業に着手し、今年の8月15日を期して離散家族訪問団交換が順調に行われるように準備します。
- ・金正日国防委員長のソウル訪問に対しても準備します。

2 各分野別に南北協力案を作成していきます

- ・軍事的突発事態を避けるために軍事直通電話の開設などを推進します。
- ・南北経済協力は、互恵的な立場で北朝鮮の受け入れ条件と韓国の能力の範囲内で実行可能な事業から段階的に進めていきます。
- ・優先的に京義線鉄道の連結、「臨津江水害防止対策」などを推進し、今後南北の共同利益となる事業及び北朝鮮側が提起する事業なども協議して推進していきます。
- ・決済システム、投資保障など南北経済協力の制度的インフラに対する韓国側の方案を作り、早急に合意するようにしていきます。
- ・文化・芸術・体育など社会文化分野の協力は民族の同質性回復と相互信頼構築に役立つ方向に関連団体および民間が政府と協力しながら推進するようにします。
- ・体育分野では2000年のシドニー・オリンピック共同入場行進、

2001年世界卓球大会の単一チーム結成、2002年アジア競技大会の北側代表団の参加、2002年ワールドカップでの南北分散開催および単一チームの結成、「京平サッカー大会」(または「統一サッカー大会」)復活などを推進します。

- ・軍事境界線一帯でマラリア・コレラ共同防疫事業など、民族共同利益の立場で保健 環境分野の協力も推進させます。

3 対北政策に対する国民的共感をより強化させていきます

- ・安保と和解・協力政策の一貫した並行推進を堅持し、政策の均衡を維持します。
- ・具体的な対北事業推進を行なう場合には国会と協力し関連団体・人物の意見を十分に受け入れ、段階的に推進していきます。

4 国際的な協力も継続的に推進します

- ・アメリカ・日本との協力を強化し中国およびロシアとの協力も継続させ、国際社会の支持と協力が南北関係の改善と統一環境づくりに肯定的に作用するようにします。
- ・北朝鮮とアメリカ、日本との関係改善、北朝鮮のADB、IBRD加盟などを支援し、北朝鮮が国際社会の一員となれるようにします。
- ・ARF(7月)、国連総会(9月)、ASEM会議(10月)などの機会を捉えて、韓半島問題の当事者解決の原則と平和的解決に対する支持および国際的保障が堅固になるよう努力します。



6. 今後の韓半島的情勢および 南北関係を見通してみましよう

- 1) 韓半島内の脱冷戦と平和の流れがより加速化するでしょう。
- 2) 当局間の経済協力を軸に社会、文化、体育、保健、環境、芸術など多方面で南北交流・協力が活性化するでしょう。
- 3) 南北基本合意書の実行体制に移ることから南北関係の改善と平和的統一基盤が構築されるでしょう。
- 4) 東北アジアおよび世界平和に寄与するでしょう。

1 韓半島内の脱冷戦と平和の流れがより加速化するでしょう

- 今度の首脳会談は、国際情勢として脱冷戦の雰囲気が成熟した結果であり、首脳会談を契機に今後韓半島の脱冷戦と平和の雰囲気は一層高まる見通しです。
- 南北首脳間の共同宣言が一つずつ実行されていけば、韓半島問題解決の障害要因が除かれ周辺国との協力関係がより強化されるでしょう。

2 当局間の経済協力を軸に社会、文化、体育、保健、環境、芸術など多方面で南北交流・協力が活性化するでしょう

- 金剛山観光事業、自動車・電子協力事業と港湾・電力など社会間接資本拡充のための南北協力が活発になるでしょう。
- 投資保障、二重課税防止、決済システム、紛争調整手続きなど経済協力の制度的基盤が作られるでしょう。
- 文化、芸術、体育分野で訪北中心に進行していた交流と協力は社会、環境、芸術、保健などより拡大された範囲で双方向の交流と協力に発展する傾向が高まり、民族の同質性回復に寄与するでしょう。

3

南北基本合意書の実行体制に移ることから南北関係の改善と平和的統一基盤が構築されるでしょう

- ・南北首脳が直接合意したことにより早い時期に南北当局間の会談が開催され、この共同宣言を実行するための協議を開始するでしょう。
- ・金大中大統領はこの首脳会談で南北基本合意書の重要性を強調し、分野別共同委員会設置の必要性を力説しました。今後当局間の会談を通じてこのような問題も協議されるでしょう。
- ・このように韓半島の冷戦構造が少しずつ解体されながら南北平和と共存および事実上の統一状況になるでしょう。
- ・また南北双方が統一案に対する論議を始めることで和解・協力を留まらず統一の基盤を着実に構築することになるでしょう。

4

東北アジアおよび世界平和に寄与するでしょう

- ・南北間の和解と協力は韓半島の緊張緩和と冷戦の終焉として東北アジアの平和と安全、さらには世界平和にも大きく寄与するでしょう。
- ・北朝鮮とアメリカ、日本を始めとする韓国の隣国との関係の正常化が加速されるでしょうし、北朝鮮が国際社会に責任のある一員として参加することにより韓半島の緊張緩和および平和はより確かなものとなるでしょう。



7. 南北首脳会談の関連情報を紹介します

- 1) 先遣隊の派遣
- 2) 南北間の往来
- 3) 大統領と大統領夫人の鑑賞活動
- 4) 会談関連主要施設
- 5) テレビ生中継
- 6) 北朝鮮側の歓迎姿勢
- 7) 国内外のマスコミと周辺国の反応

1 先遣隊の派遣

- ・5月31日、南北会談事務局長を団長とした先遣隊30人が板門店を
通って平壤に到着しました。
- ・先遣隊は平壤の百花園迎賓館に泊まりながら首脳会談のための
宿舎および会場の点検や滞在日程の協議を行ない、警護・儀
典・通信・報道など実務的な接触をしました。
- ・先遣隊は滞在期間中板門店を通じて3回の人員交代をしながら
480余りの点検事項を中心に首脳会談の準備に万全を期した。
- ・北朝鮮側も韓国側の先遣隊の人員が平壤で活動をするのに不便
がないように様々な便宜を図りました。

2 南北間の往来

- ・金大中大統領一行は分断史上初めて韓国籍の専用機に乗り、
南北間を往来しました。
- ・飛行機は西海上を経由し、約1時間10分ほど飛行しました。
この過程で韓国側と北朝鮮側では管制・通信・領空警護などで
円滑な協力が行われました。
- ・また、首脳会談期間の前後にソウルと平壤の空港間の気象状態
に対する情報交換も行われました。

3 大統領と大統領夫人の鑑賞活動

- ・金大中大統領は北朝鮮に滞在中、万景台少年学生宮殿、万寿台芸術劇場を訪れ公演も鑑賞しました。
- ・一方、大統領夫人の李姬鎬女史は平壤産院(産婦人科病院)、蒼光幼稚園、手芸研究所などを訪問し関係者と対話をしました。
- ・また李姬鎬女史は北朝鮮の女性指導者たちと対話する機会をもち、梨花女專時代の恩師と50余年ぶりに再会しました。

4 会談関連主要施設

- ・金大中大統領一行は北朝鮮側が用意した宿舎である百花園迎賓館に宿泊しました。代表団の一部は百花園迎賓館から3kmほど離れた酒岩山招待所に、記者団は高麗ホテルに宿泊しました。
- ・百花園迎賓館は北朝鮮側が誇る最高級施設で、今までジミー・カーター前米大統領、南北高位級会談に出席した韓国側の内閣総理一行が平壤滞在の際に泊まったところです。
- ・この迎賓館で金大中大統領と金正日国防委員長の対面と会談が開催され、金正日国防委員長が主催した告別午餐会も行なわれました。
- ・一方、金大中大統領と金永南最高人民会議常任委員長との表敬

訪問と公式会談が行われたのは万寿台議事堂(国会議事堂に当る)です。

- ・金永南委員長主催の晩餐会が開かれたのは人民文化宮殿で、90~91年に南北高位級会談が開かれたところです。
- ・金大中大統領が主催した答礼晩餐会は木蘭館で開催されました。韓国側は答礼晩餐会のためにソウルから調理師と食材を支援し北朝鮮側の人たちと共同で晩餐会を準備しました。

5 | テレビ生中継

- ・金大中大統領一行がソウルを出発し平壤に到着する場面、平壤市内を移動し宿舎に到着する場面などは韓国側の人と装備によって実況生中継されました。
- ・また午餐会、晩餐会、鑑賞、南北共同声明の署名場面などは時差を置いて中継されることにより韓国の国民と全世界に生々しく伝わりました。
- ・テレビの生中継のために韓国側の要員が先遣隊として平壤に行き点検をし、韓国側のSNG装備も北朝鮮側に搬入されました。
- ・南北が分断史上初めて生中継を実施することにより南北間の放送交流・協力の新たな幕が開かれました。

6 北朝鮮側の歓迎姿勢

- ・南北首脳会談を前後して北朝鮮側のマスコミはこれまでの対南非難の強度を著しく押さえ、首脳会談が成功裏に開催される雰囲気作りを行ないました。
- ・首脳会談の期間中北朝鮮側のマスコミは南北首脳の対面と会談、共同宣言発表にいたるすべての過程を大きく扱い、繰り返し報道しました。
- ・金正日国防委員長は平壤の空港まで金大統領を出迎え、歓送しました。宿舎と空港まで移動の際には金大中大統領と乗用車に同乗しました。これは過去の他国首脳が訪朝した時に照らしても大変異例なことでした。
- ・百花園迎賓館に移動する間沿道に並んだ60万の平壤市民は花を振りながら「万歳」を叫び熱烈に歓迎し、一部現地の北朝鮮住民は感激の涙を流したりもしました。
- ・このような歓迎の人波は過去中国の首脳が訪朝した時に比べてもはるかに大きな規模のものでした。
- ・大統領一行が平壤を訪れている間、北朝鮮の人たちは丁寧な暖かい姿勢で私たちを迎えてくれました。彼らは私たちの活動に支障がないよう最善を尽くしてくれました。

7 国内外のマスコミと周辺国の反応

- ・首脳会談の開催を取材するためソウル・プレスセンターに登録した取材記者は国内外を合わせて300余社、1,300余人(外信173社 503人)に上りました。
- ・これは88年のソウル・オリンピック以降単一行事では最大の規模であり世界の関心が韓半島に集中していたことを示しています。
- ・また会談が成功裏に終わったことについて世界の主なマスコミは一斉にトップ・ニュースでこれを報道し、「ついに南北が過去55年間の反目と対立を超えて、和解と協力の新時代に入った」と評価しました。
- ・米・日・中・ロなど周辺主要国の要人や国連事務総長は首脳会談開催前に会談の成功を祈念する声明を発表し、会談終了後には会談の成果を歓迎する声明を発表しました。また、ローマ法王も首脳会談の成功を祈念する特別声明を発表しています。
- ・クリントン米大統領は「全世界が南北首脳会談に鼓舞された。長い間分かれていた離散家族が対面することになったのは大きな進展」だと語りました。
- ・日本の森喜朗総理大臣も南北首脳会談で発表された共同宣言に対して「歴史的な快挙」であると評価しました。
- ・中国は6月15日政府の声明を通じて「南北首脳会談で5項目の合意を導き出したことは韓半島の平和と安定に価値のある措置で心から祝福する」と発表しました。
- ・ロシアのプーチン大統領も6月19日金大統領との電話で「南北首脳会談が成功裏に行われたことについて南北両首脳を祝福し、これは両国の成功」だと語りました。



付 録

- 1) 南北首脳会談の開催経過
- 2) 南北首脳会談開催合意書
- 3) 南北首脳会談実務手続合意書
- 4) 南北共同宣言

付録1 南北首脳会談の開催経過

[1998]

2月 25日 金大中大統領の就任演説

- 対北政策三原則発表、南北首脳会談の開催を提議

3月 1日 金大中大統領3月1日記念演説

- 南北特使交換、離散家族の生死確認、対面実現を促す

4月 11日～17日 南北当局代表会談の開催(中国北京)

- 対北支援と離散家族問題の議論、成果なく終了

8月 15日 金大中大統領 8月15日慶祝演説

- 対北政策三大原則堅持、すべての対北経済協力支援を勧奨
大統領特使の平壤派遣準備、長・次官クラスの南北常設対話機構創設の
提案、分野別共同委員会の稼働を促す

[1999]

1月 4日 金大統領主催 国家安全保障会議

- 統一関連三大目標と基本方向の決定

2月 3日 北朝鮮政府・政党・団体連合会議、高位級政治会談の提議

- 三つの先行実践条件を提示

4月 23日～6月3日 南北非公開接触(中国北京)

- 南北次官級会談の開催合意

6月 22日～7月3日 南北次官級会談の開催(中国北京)

8月 15日 金大統領 8月15日慶祝演説

- 南北政府レベルの交流希望を強調

9月 27日 北朝鮮白南淳外相、統一三大原則と北朝鮮の高位級政治協商提議に南が
応じれば南北首脳会談も可能だと言及

10月 19日 金大統領 国会で施政演説

- 南北民族経済共同体の建設をアピール

[2000]

3月 9日 金大統領ベルリン宣言

- 南北経済協力による北朝鮮経済の回復支援
- 韓半島冷戦の終焉と南北韓の平和共存
- 離散家族問題の解決
- 南北当局間の対話推進

付録1 南北首脳会談の開催経過

- 3月 17日～4月 8日 非公開特使接触(中国、上海および北京)
- － 韓国側の特使：朴智元文化観光部長官
 - － 北朝鮮側の特使：宋虎景朝鮮アジア太平洋委員会副委員長
- 4月 8日 南北首脳会談の開催合意(中国北京)
- 4月 10日 南北首脳会談開催合意の発表(ソウルと平壤同時)
- 4月 18日 韓国側は板門店を通して首脳会談開催のための準備会談を提議
- 4月 19日 北朝鮮側はこれに同意
- 4月 21日 双方の代表団リストを交換
- 4月 22日 第1回準備会談(板門店「平和の家」)
- － 韓国側は手続き問題に対する基本姿勢および「ベルリン宣言」を中心とした協力課題の議論の方向を提示
 - － 北朝鮮側は韓国側の提案を十分に考慮して、現実的な案を次の会談で提示すると言及
- 4月 27日 第2回準備会談(板門店「統一閣」)
- － 北朝鮮側は首脳会談手続き問題に対する韓国側の案を大部分受け入れるという立場を表明
 - － 代表団の規模、首脳会談の形式、往来方法など
- 5月 3日 第3回準備会談(板門店「平和の家」)
- － 双方それぞれ「手続合意書案」を提示、項目別具体的内容を集中協議
 - － 会談の回数、往来手続き、便宜保証、身辺安全保障など相当な部分で合意
- 5月 8日 第4回準備会談(板門店「統一閣」)
- － 取材記者数を始めとするいくつかの問題を除いた残りの部分について合意
- 5月 18日 第5回準備会談(板門店「平和の家」)
- － 「南北合意書(2000年4月8日)実行のための実務手続合意書」最終妥結
- 5月 27日 韓国側の先遣隊(30人)リスト通知
- 5月 31日 先遣隊平壤到着(板門店経由)
- － 警護、通信、儀典、報道分野の細部実務協議および会場の下見
- 6月 5日 韓国側の代表団(130人)リスト通知
- 6月 9日 北朝鮮総理名義の身辺安全保障覚書を受付
- 6月 10日 北朝鮮、技術的な準備関係で首脳会談を1日延期(12日→13日)することを提議
- 韓国側はこれを受け入れ
- 6月 11日 首脳会談取材を支援するためソウル・プレスセンターオープン
- 6月 13日～15日 南北首脳会談(平壤)
- 6月 15日 南北首脳会談共同宣言発表

南北合意書

南と北は歴史的な7月4日南北共同声明で誓われた祖国統一三大原則を再確認しながら民族の和解と団結、交流と協力、平和と統一を早めるために次の通り合意した。

金正日国防委員長の招請により金大中大統領が2000年6月12日から14日まで平壤を訪問する。

平壤訪問では金大中大統領と金正日国防委員長の間で歴史的な対面があり南北首脳会談が開催される。

双方は来る4月中に手続問題を協議するための準備会談を持つことにした。

2000年 4月 8日

上部の意を奉じて

南 側

文化観光部

長官 朴 智 元

上部の意を奉じて

北 側

朝鮮アジア太平洋委員会

副委員長 宋 虎 景

南北合意書(2000年4月8日)実行のための実務手続合意書

南と北は2000年4月8日の合意書に基づき4月22日から5月18日まで板門店で5回にわたり準備会談を開き、実務手続問題について次の通り合意した。

1. 代表団の構成と規模

- ① 南側の代表団随員は130名とする。
- ② 南側の代表団取材記者は50名とする。

2. 対面および会談の形式と回数

金大中大統領と金正日国防委員長の間に歴史的な対面があり、南北首脳会談が開催される。

対面と会談は最小限2～3回であり、必要に応じて増やすこともできる。

3. 対面および会談の議題

対面および会談の議題は「歴史的な7月4日南北共同声明で誓われた祖国統一三大原則を再確認し民族の和解と団結、交流と協力、平和と統一を実現する問題」とする。

4. 滞在日程

- ① 南側代表団の北側地域の滞在期間は2000年6月12日から6月14日まで2泊3日とし、必要に応じて延長可能とする。
- ② 北側は南側代表団の具体的な滞在日程を訪問10日前に南側に通知し、双方が協議してこれを確定する。

5. 先遣隊の派遣

- ① 南側は30名で構成された先遣隊を代表団訪問12日前に北側に派遣する。南側の先遣隊は必要に応じて板門店を通じて往来できる。
- ② 南側の先遣隊の滞在日程と具体的な実務手続問題は南側の先遣隊の北側到着直後に双方が合意し決定する。

6. 往來手続

- ① 南側の代表団の往來は空路または陸路とし、空路とする場合は南側の飛行機とし陸路にする場合は北側の自動車とする。
- ② 南側の先遣隊は北側の自動車を利用し、通過地点は板門店とする。
- ③ 南側は首脳一行のリストを訪問7日前に北側に渡し、先遣隊の場合は訪問4日前に北側に渡す。
リストには氏名、性別、役職、所属を明らかにし写真を添付する。
リストを渡した後変更する事項は板門店を通じてまず電話で通知し、その次に文書で伝える。

7. 便宜保証

- ① 北側は北朝鮮側に滞在する南側の人員の宿舎、食事、交通、通信、医療などその他必要なすべての便宜を提供する。
- ② 南側の代表団は北側の地域に滞在する間北側の案内と秩序に従う。
- ③ 北側は南側の代表団の北朝鮮滞在期間中、板門店を通じて1日2回の郵袋運搬を保証する。

8. 身辺安全保障

- ① 北側は北朝鮮を訪問する南側の人員の身辺安全を保証する総理名義の身辺安全保障覚書を訪問3日前に板門店を通じて南側に渡す。

- ② 北側は南側が今回の訪朝の性格に合わせて携帯品を所持するという条件でそれに対する不可侵を原則的に保証する。

9. 随行員、記者の表示および証明書

- ① 双方は自分たちの随行員の表示をそれぞれ自由に行なう。
- ② 記者は記者腕章をつける。
- ③ 南側の随行員と記者は韓国の総理が発行した身分証明書を携帯する。

10. 対面および会談場所表示および施設

- ① 対面および会談場所と行事会場(宿舍含む)で南側が連絡業務ができるよう通信施設を設置提供する。

11. 対面および会談の記録

双方は対面および会談の記録を速記、録音、録画などそれぞれ自由に行なう。

12. 対面および会談の報道

- ① 対面および会談の報道は自由に行なうが、必要に応じて共同報道文を作成・発表することができる。
- ② 北側は南側に実況中継ができるよう必要な施設と人員を最優先的に保証し、テレビ映像送出のための伝送路および衛星中継のための便宜を提供する。
- ③ 北側は南側に実況中継するために南側の人員が直接撮影、制作できるように必要な支援と便宜を保証する。

13. 記者の取材活動

- ① 北側は南側の記者たちの滞在期間中の取材活動を保障する。
- ② 双方は報道の正確性と公正性を期することとする。

14. その他実務手続問題

- ① 韓国側の代表団は北朝鮮滞在期間中、すでに仮設されたソウル～平壤間のホットライン回線と共に予備の通信で衛星通信網を利用する。
- ② その他、提起される実務手続問題は南北高位級会談の慣例に基づく。

15. 合意書の発効

この合意書は双方が署名し、交換した日から効力を発効することとする。

2000年 5月 18日

南北合意書実行のための準備会談の南側代表団主席代表
大韓民国 統一部 次官
梁 榮 植

北南合意書実行のための準備会談の北側代表団団長
朝鮮民主主義人民共和国 最高人民会議常任委員会 参事
金 靈 成

南北共同宣言

祖国の平和的統一を念願する全民族の崇高な意思により大韓民国の金大中統領と朝鮮民主主義人民共和国の金正日国防委員長は2000年6月13日から6月15日まで平壤で歴史的な対面と首脳会談を行った。南北首脳は分断の歴史上初めて開かれた今回の対面と会談がお互いの理解を増進させ、南北間関係を発展させ、平和統一を実現させる重大な意義を持つと評価し、次のように宣言する。

1. 南北は国の統一問題をその主人である我が民族同士で互いに力を合わせ自主的に解決していくことにした。
2. 南北は国の統一のため南側の連合制案と北側の緩やかな連邦制案が相互共通性があると認め、今後この方向から統一を志向していくことにした。
3. 南北は今年の8月15日に離散家族、親戚訪問団を交換し、非転向長期囚問題を解決するなど人道的問題を早急に解決していくことにした。
4. 南北は経済協力を通じて民族経済を均衡的に発展させ、社会、文化、体育、保健、環境などあらゆる分野での協力と交流を活性化させ、双方の信頼を固めていくことにした。

付録4 南北共同宣言

5. 南北は以上のような合意事項を早急に実行に移すため早い時期に当局間の対話を開催することにした。

金大中大統領は金正日国防委員長がソウルを訪問するよう丁重に招請し、金正日国防委員長は今後適切な時期にソウルを訪問することにした。

2000年 6月 15日

大	韓	民	国	朝鮮民主主義人民共和国
大	統	領		国防委員長
金	大	中		金正日